

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立伏見住吉幼稚園)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成28年3月9日	評価日	平成28年3月14日
						評価者・組織	幼稚園評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	主体的に行動できる子どもの育成	一人一人の発達に応じた指導の工夫と充実 園内研修の充実	『お子さんは楽しんで幼稚園に通っていますか』	保護者アンケート結果で、そう思う、大体そう思うで99%の回答	⇒	本園の教育目標等を理解し家庭でも幼稚園と同じ方向を向いた家庭教育を行っているということがわかった。	⇒	このことは大変嬉しいことであり、この結果が保てるように今後の保育の在り方を考えていきたい。
2	豊かな心	豊かな体験活動の充実 人とかかわりを楽しむ子どもの育成 親子読書の促進	自然体験 園外保育の見直し 栽培活動等環境構成の見直し 様々な人や異年齢のかかわりをいかした取組 絵本ノートの活用	『幼稚園の環境は子どもの豊かな経験ができるように整えられていますか』 『周りの人に親しみをもつて挨拶をしていますか』 絵本の貸出の増加と絵本ノートの活用	保護者アンケート結果で、そう思う、大体そう思うで100%の回答 保護者アンケート結果であまりそう思わないが11%の回答 絵本貸出数の増加	⇒	今年度は遠くへの園外保育にはあまり行けなかったが、身近な公園等自然とかかわれる所に繰り返していくことができた。四季の変化にも気づくことができた。絵本ノートの活用が今年度は進んでいると思っていたが、保護者が意識に差があり、思ったより100冊読書達成が少なかった。	⇒	人とかかわるということで、小学生や他の保育園の子どもたちとかかわることがもっとできないかと小学校では、考えている。 来年度は幼稚園・保育園に呼びかけを小学校側からし、子ども同士交流をしていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	家庭と連携した発達に応じた基本的生活習慣の確立に向けた取組	『自分のことは自分でしようとしていますか』 『幼稚園生活を通して心身がたくましくなっていますか』	保護者アンケート結果であまりそう思わないが11%の回答 保護者アンケート結果で、そう思う、大体そう思うで100%の回答	⇒	アンケート結果にあまりそう思わないとあったのは、前期同様、幼児期の特徴である個人差と保護者の価値感の違いがあるためだと考えられた。また、保護者自身の理想も含まれると思われる。	⇒	園だよりを読ませてもらって、ケガの多い曜日は木曜日、病気の1位は倦怠感とあるのは何か要因があるのかとのご質問があった。
4	独自の取組	保幼小連携の充実 子育て支援の充実 預かり保育の充実 情報発信の充実 保護者との連携	国研の研究 公開保育 保幼小交流活動 教育相談の実施 長時間預かり保育・休業中預かり保育の実施 園だよりの工夫 ホームページの積極的な更新 教職員のあたたかいかわり	『地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていますか』 参加状況数と参加者・保護者の意見 保護者に意見 ホームページアクセス数 『教職員は子ども一人一人にあたたかいかわりをしていますか』	保護者アンケート結果で、そう思う、大体そう思うで94%の回答 教育相談の参加数は昨年とあまり変わらない。預かり保育は好評 ホームページのアクセス数増加 入園等の問い合わせは増加 保護者アンケート結果で、そう思う、大体そう思うで100%の回答	⇒	今年度小学校と一緒の研究をしてきた。教員間の交流は増加したが、子どもの交流が少なかった。そのことが保護者には幼小接続の研究が見えにくかったという意見もいただいた要因なのではないかと思った。今年度より実施した預かり保育は好評である。長時間預かり保育についての問い合わせがかなり増加している。	⇒	小学校の先生とはかなり顔見知りになり、何事も話せるようになってきている。このことは必ず子どもたちに返っていくことをだと思いい、2年目の研究を進めたい。地域や保護者に発信し、理解や協力を得られるようにしていきたい。預かり保育の実施の検証をし、課題等を考察し、今後の取組に生かしていきたい。

4 総括・次年度の課題

- ・学校評価によって、本園の取組が地域の方や保護者に理解が深まっているのかがよくわかりよかった。また、発信が不十分だった部分については発信方法の工夫をしていきたい。
- ・保護者アンケート項目を再度見直し、幼小接続を見据えたアンケート項目等を考えていくことも必要なのではないかと思った。